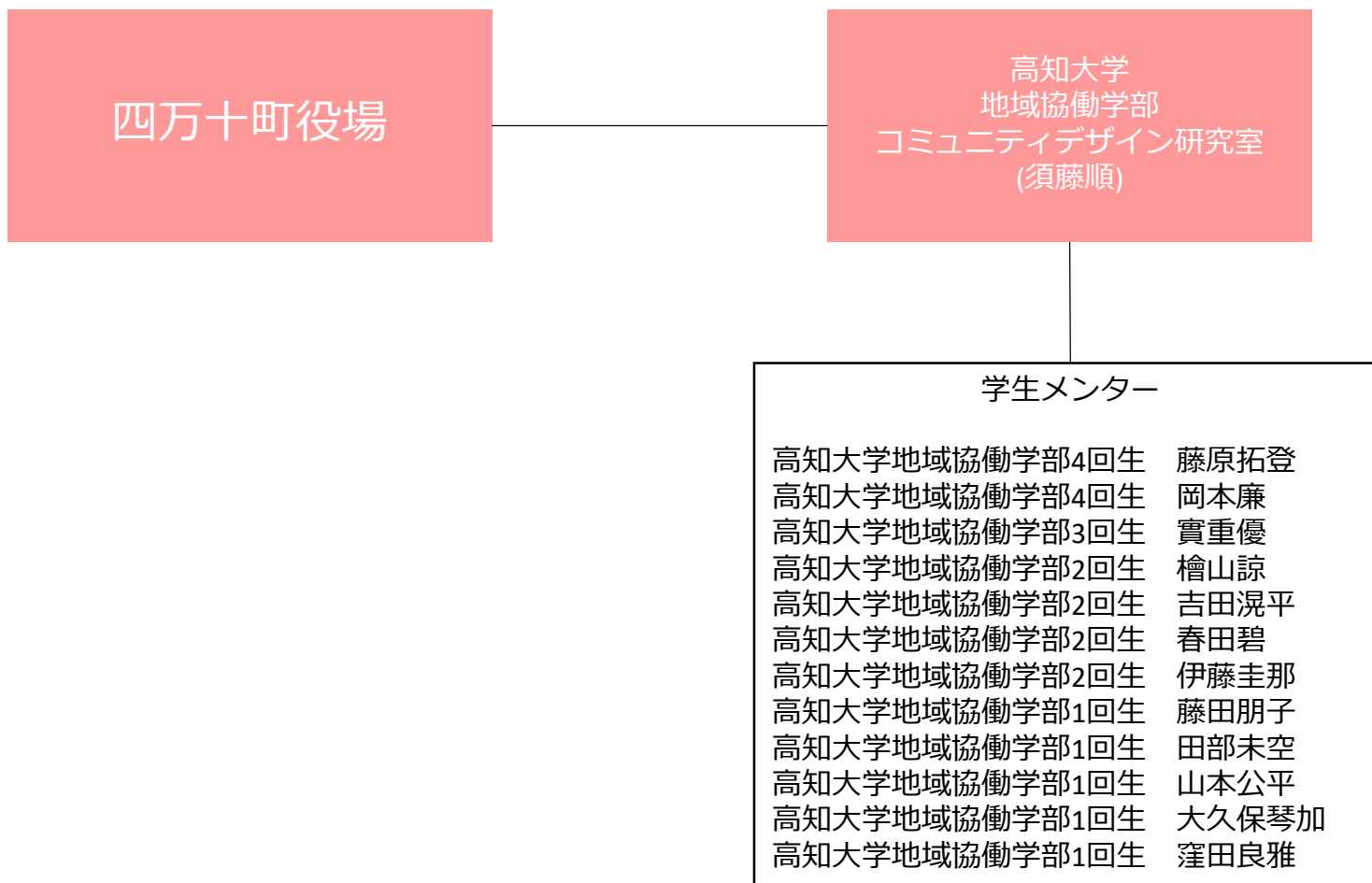


2019年度 四万十町地域イノベーター養成講座 第4回 ビジュアルレポート

高知大学地域協働学部
コミュニティデザイン研究室



**1人ひとりが自分事として、
地域課題解決や活性化を目指す
「チャレンジする人材」の学びの場**

- ① 一人ひとりが自分の経験の中から、自分自身のミッション（使命）を見つけ出す
- ② “ジブンゴト”で取り組むことができるプロジェクトを自分自身で生み出す
- ③ ジブンゴトのプロジェクト（マイプロジェクト）に取り組む仲間同士がともに切磋琢磨しながらも支え合う関係を創る

- 1 安心・安全の場をみんなで創ろう
- 2 ありのままの自分を素直に出そう
- 3 仲間・プロジェクトを評価しない
- 4 プロジェクトは変わってOK
- 5 お互いに貢献し合う

自分に基づいた (My)

「何かを、プロジェクトの形にして (pjt) やってみる」
ことから始まる、自分や世の中の変化の物語

自らの経験の中から、

自分のミッションを生み出していく

マイプロ Me編	名前 (ニックネーム、読んでほしい名前、その由来)	作成日： 場所：
似顔絵・写真	みんなが知らない自己紹介	
自分ヒストリー 音 (～)学校	人生グラフ：横軸は年で、縦軸はイキキ度(幸せ度)。人生で輝いていた時、沈んでいた時を見る化しよう！	
(～中学・高校)		
(～専門・大学)	みんなが知らない自慢・一発芸・得意技	
(～現在)		
今		
マイプロジェクトの源泉へ		

← me編シート

- ・自分のライフヒストリーや好きだったこと、楽しかったこと、つらかったことなど
- ・自分の人生をグラフにしてみる
- ・普段見せない自己紹介

project編シート→

- ・自分と紐づいたプロジェクトを書き出す
- ・それは誰にどんな価値を生み出すのか

PROJECT編	
わたしのプロジェクト(マイプロジェクト)を一言で！	
■実践したいプロジェクトの概要	
■「やってみたい！」と思った、理由や背景、原体験	■「誰」にどんな価値を生み出しますか？

- ① **Why** : どんな「わたし」が何を夢描いているのか？
- ② **What** : それを実現する、何をするプロジェクトなのか？
- ③ **How** : プロジェクトを進めるため、進捗を管理しよう



① Why?

プロジェクト

② What?

プロジェクト

プロジェクト

わたしたち



③ How?
進捗管理

ビジョン実現に向けて、学習と軌道修正をくりかえす

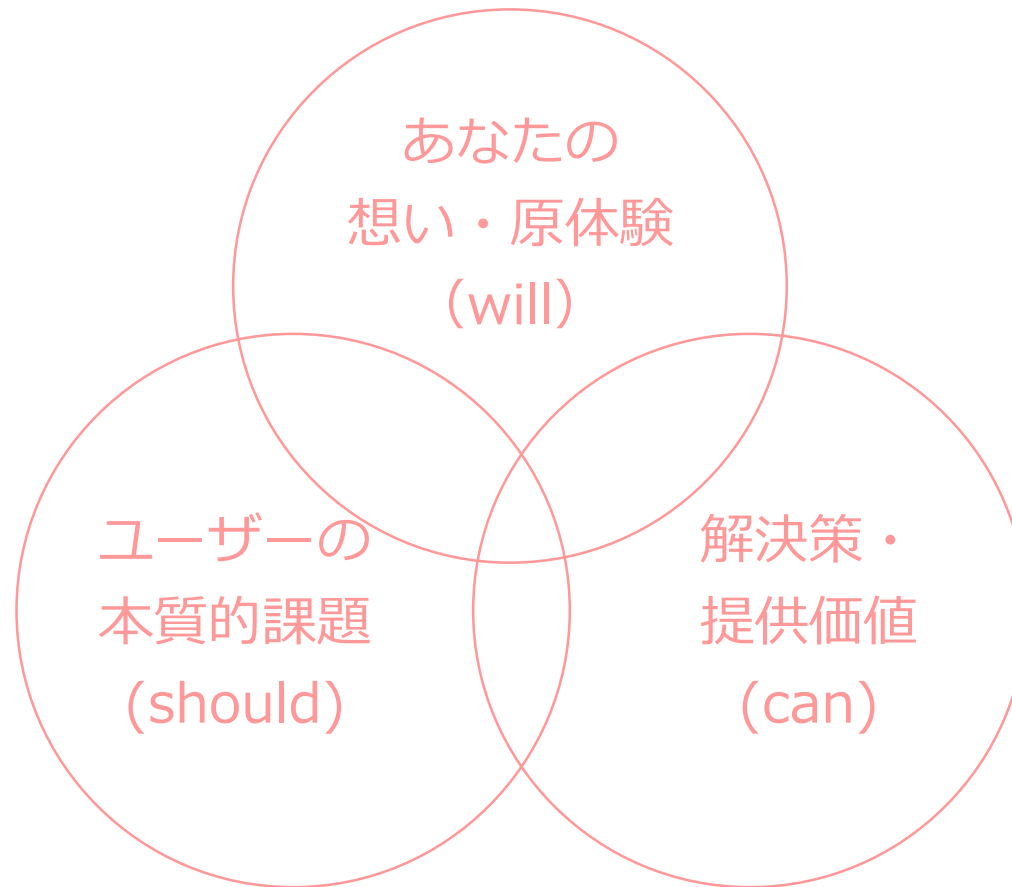


挑戦を支える“居場所”(セーフスペース)

- 自分たちとプロジェクトの“つながり”
- Yes, Andできる仲間やコミュニティの存在

マイプロジェクト =
自分に基づいた (my)
「何かを、プロジェクトの形にして (project)
やってみる」ことから始まる、自分や世の中の変化する物語

出所: ボーンSTEIN& デイヴィス(2010訳書, p.114) 追加修正
※ 井上英文作成



【実施概要】

- 実施名称 四万十町地域イノベーター養成講座 第4回
- 日 時 令和元年11月2日（土） 13時00分～17時00分
- 会 場 四万十町役場本庁東庁舎1階・多目的ホール
- 主 催 四万十町・高知大学地域協働学部コミュニティデザイン研究室
- 実施内容 一人一人がジブンゴトトして、地域課題解決や活性化を目指す「チャレンジする人材」の学びを支援する「地域イノベーター養成講座」の第4回目を開催した。

【タイムライン】

- 13 : 00 主催者挨拶 横山光一氏（四万十町役場）
- 13 : 10 チェックイン&アクション共有
- 13 : 20 基調講演 田端 将伸氏（埼玉県横瀬町役場まち経営課）
- 14 : 30 プロジェクト&アクションでの気づき共有
- 15 : 00 LSPワーク
- 16 : 40 田端氏への質問タイム&振り返り
- 17 : 00 チェックアウト

まずは現時点での心情と、第3回での宿題について自分なりに起こしたアクションの共有を行った。オープニングでの緊張がだいぶなくなり、和やかな空気が流れていた。共有時には、笑い声や驚く声が聞こえ、皆がお互いのアクションにとっても興味を持って聞いていることが分かった。



横山氏挨拶



受講生発表の様子



学生メンター発表の様子



受講生発表の様子

『よこらぼ』の事例紹介と共に、「環境が悪くてできない”じゃなく、やってないだけ」という言葉が強く印象に残った。日々踏み出しながら活動しているという横瀬町は、まずDo“動く”ことから始めていた。質問タイムでは、ワクワクを大事にするというのが受講生の心に強く響いたという声を多く聞いた。



田端氏 基調講演



動画視聴を終えて



田端氏への質問タイム



受講生からの質問・感想

プロジェクトやアクションについての気づきをグループ内で共有した。アクションを起こすことで、それぞれが今までとは違った気づきが生まれていた。
この流れで、次はLSPに移った。作成開始の合図があると、ほとんどの受講生がすぐに組み立て始め、多くの受講生がレゴの扱いに慣れてきた様子が伺えた。



今回のLSPでは自分のプロジェクトについて、「足りないもの・阻害しているもの」などに発想を巡らせ、深く考え突き詰めるワークを行った。
前回に比べ、シンプルな作品が多いように感じ、自分の中の根底にあるものとしっかり向き合って核に気付けた作品が多かった。



LSP組み立ての様子



受講生の作品

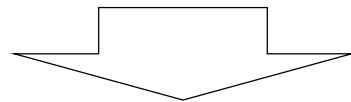


LSP作成の様子

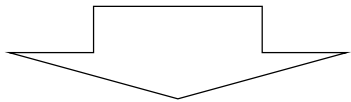


班での作品解説

STEP1: “My Story” → “It’s me ”



STEP2: 「共に」 一歩踏み出す



STEP3: 仲間として支え合う

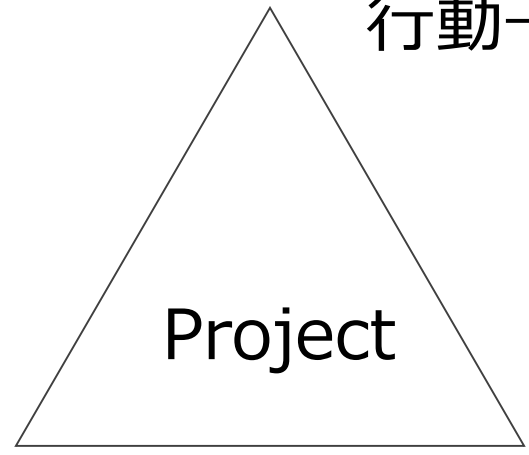
変化歓迎・失敗歓迎・立ち止まり歓迎

プロジェクトの成功より、

一人一人が自分の人生を生きているかどうか？

行動→気づきと仲間

「わたし」
のWill

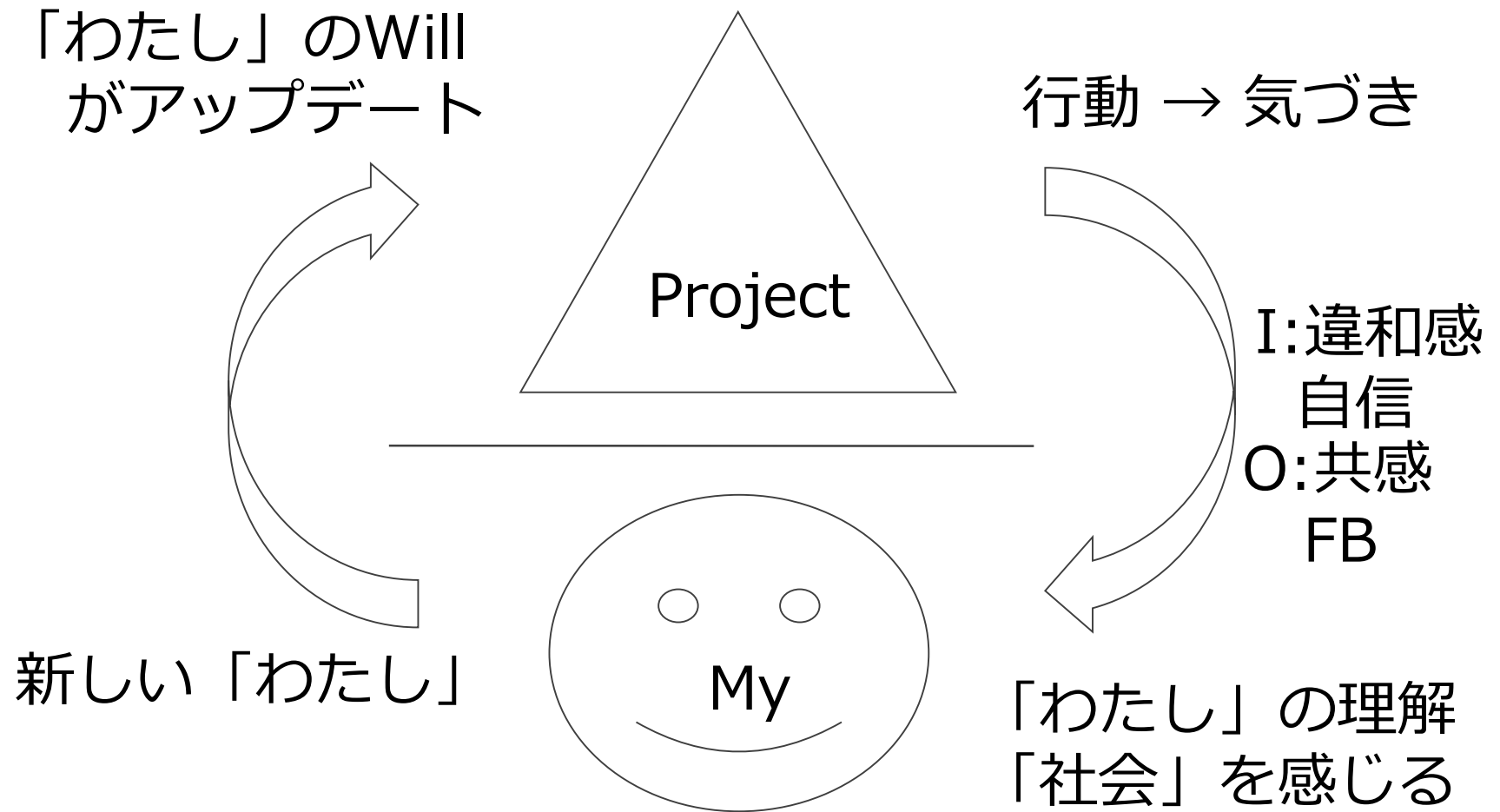


賞賛
共感
違和感
失敗
成功

新しい「わたし」

自信
「わたし」の理解

出所：ビジネス・ブレイクスルー大学 須子善彦氏作成資料より



出所：ビジネス・ブレイクスルー大学 須子善彦氏作成資料より

① マイプロシート(me & pjт編)をみんなの前でシェア



② みんなからフィードバック



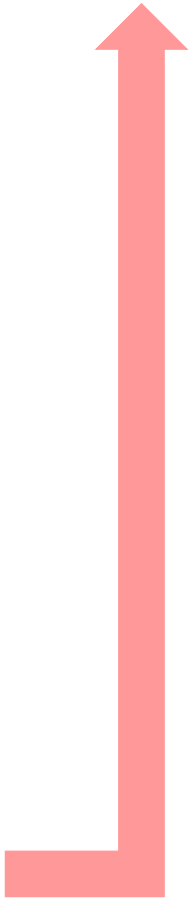
③ プレゼントカードを書いて渡す



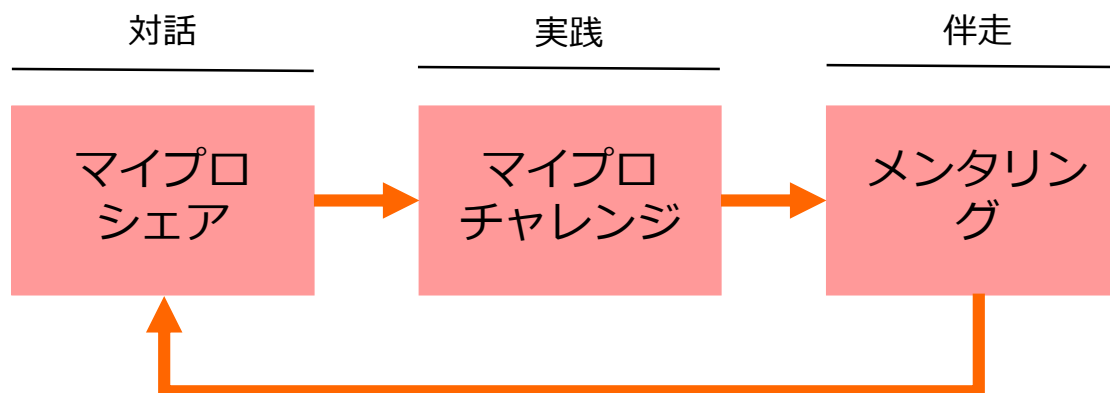
④ アクションを試してみる



⑤ 気づきを踏まえてシートを書き換える



※みんなで支え合いながら、
このサイクルを超高速で回していく



- 四万十町地域イノベーター養成講座は、誰かが知識や方法論を教えるのではなく、受講生一人ひとりと大学生メンターと一緒にマイプロジェクトを進め、喜びや悩み、想いを共有しながら一歩ずつ前に進んでいくことを目指します。
- 対話を通じて一人ひとりのマイプロを共有し、一人ひとりが小さな実践を行い、それを受講生と大学生が相互にメンタリングを行いながら、「本当に自分がやりたいこと」に取り組んでいきます。
- こうしたプロセスを通じて「ジブンゴトをミンナゴト」にしていくための一人ひとりに法則を見つけ出していきます。
- 地域にイノベーションを起こすためには知識や方法論、メソッドはもちろん、本当に自分がやりたいこと、気になることを、仲間とともに小さな一歩を進めることから始まる、というのが私たちの基本的な考えとして講座を進めていきます。

四万十町役場人材育成推進センター

担当：横山 光一

〒786-0008 高知県高岡郡四万十町榊山町3番7号

TEL 088-022-3163 FAX 088-022-3123

E-mail 103060@town.shimanto.lg.jp

高知大学地域協働学部コミュニティデザイン研究室(須藤順研究室)

担当：講師 須藤 順

〒780-8520 高知県高知市曙町2-5-1総合研究棟1階

TEL 088-788-8077 FAX 088-888-8043

E-mail j.suto@kochi-u.ac.jp

Web <http://www.communitydesign-kochi.jp/>

※本講座に関する問い合わせは上記までお願いいたします。

※本資料の無断での配布、外部組織や個人への配布・閲覧、及び二次使用は、固く禁止させていただきます。